

『自己を見つめ、他人を思いやる心の育成』

あま市立七宝中学校

1 目 的

- (1) 学年行事や学校行事への積極的な参加を通して、自他のよさを認め合い、ともに成長していこうとする豊かな心を育てるとともに、主体的に解決していこうとする態度を養います。
- (2) 学校に居づらくなった生徒を中心とした支援体制を充実し、学校の居場所づくりに努めます。
- (3) 自他の命に向き合う時間を、道徳の時間や各教科の授業、講演会等の行事としても設け、自他の命や人権を大切にする意識、態度、実践力を養います。
- (4) 全校生徒対象に「しっぴータイム」を設け、他者とのかかわりの中でよりよい人間関係をつくるためのコツや技術を習得させるとともに、自己を見つめ、自己肯定感・自尊感情を育みます。また、授業力の向上、いじめ・不登校への対応など職員の資質向上を図ります。

2 内 容

(1) しっぴータイム

「しっぴータイム」を取り入れて10年目となりました。「しっぴータイム」とは、ソーシャルスキルトレーニングと構成的グループエンカウンターを組み合わせた活動で、他者とかかわりながらよりよい人間関係を築くためのコツや技術を習得させるとともに、自己肯定感や自己有用感を高めることを目的とした1回10分の活動です。本校では、週時程に組み込み毎週月曜日に行っています。「しっぴータイム」は、テーマに合わせて交流し、対話的な柔らかい雰囲気に包まれます。

また、「しっぴータイム」を継続してきたことで獲得した力を、各教科で生かす場として授業展開の中に「しっぴートーク」を設けています。学習指導要領が変わり、今まで以上に身に付けた知識・技能を活用し課題を解決する力が求められていますが、「しっぴートーク」を取り入れることにより、他者とかかわりが深まり、協働して各教科のねらいに迫ることができると考え取り組んでいます。

(2) 異年齢集団の編成（縦割り）による学校祭

全校を縦割りにしたブロック制で行っている学校祭は、毎年大いに盛り上がります。学校祭は体育祭と文化祭を2日間で行っており、体育祭は学年競技に加えて、ブロックパフォーマンスとブロック対抗競技を、文化祭は合唱コンクールや吹奏楽部演奏、有志発表を行っています。本年度は体育館の工事に伴い、合唱コンクールを美和文化会館で行いました。

学校祭の準備は、学校祭テーマをデザインしたモザイク画の作成から始まりました。

モザイク画とは、体育館の舞台一面に掲げる縦4m×横10mの壁画のことで、生徒一人一人がデザインの一部分を担当して色を塗り、それを有志ボランティアが貼り合わせて仕上げるものです。この制作を通して生徒たちは、大勢の力で一つのものを作り上げると一人では到底できないような迫力のある作品ができることを感じたり、達成感を味わったりしました。

また、ブロックパフォーマンスやブロック合唱の練習を通して、ともに認め合い、励まし合いながら互いの友情を深め、団結して学校祭を作り上げることができました。



【モザイク画】

(3) 命の授業

命の授業は、3年生を対象にして、性に関する知識や中学生として今のうちに知っておくべきことを講師の先生から教えていただく機会です。本年度は大西千夏先生をお迎えしました。暑さ対策のため視聴覚

室にて、講師の先生のお話を聞かせていただきました。自分の行動は自分で責任をとることができるように強い意志をもつ大切さを学びました。

(4) 指導力の向上

教職員の指導力向上を図るため、「かわりプログラムSimple」代表の曾山和彦氏を講師に招き、生徒の自己肯定感や自己有用感を高めることをテーマとした現職教育を7月と11月に行い、本校の職員だけでなく、近隣の小中学校や県内の先生方も参加し研修を深めました。他者とかかわり合いながら自尊感情を高めよりよい自己実現を目指して主体的に学ぶことができる生徒の育成のため、曾山先生には全学級を参観していただきご指導いただいています。複数年にわたって継続的にご指導いただいているため、本校の状況をしっかりと踏まえた上で、現状を改善するためのアドバイスをいただくことができました。

(5) 校内教育支援センター（i ルーム）事業の推進

生徒が学校や教室に居づらくなった時など、学校から足が遠く前の手立てとして「相談しやすい環境」づくりを目指し、令和5年度に校内教育支援室を立ち上げました。令和6年度には愛知県の校内支援センター設置推進事業の委託を受け、支援員を数名配置しています。

i ルームでは、人とかかわり方を育むことをねらいとして、トランプやブロックなどのコミュニケーションゲームを複数購入しました。時間を決めて仲間や支援員と楽しむ様子がありました。また、居心地のよい空間をつくるために、カーペットを敷き詰めた場所を整備しました。各々が学習したり、会話を楽しんだりするために、好きな場所で時間を過ごすことができます。



【i ルーム】

3 評 価

- ・ 校内教育支援センター（i ルーム）事業では、場所を設置するだけでなく、ゲームやカーペットを購入して環境整備に努めたことで、居心地のよい空間をつくることができました。
- ・ 「しっぴータイム」の継続的な取組によって、生徒の自己肯定感、自己有用感の高まりの一助となりました。授業においても、話し合い活動が定着し、意見交換が授業になじんできました。

4 課 題

- ・ 校内教育支援センター（i ルーム）事業では、一人一人が学習したり、自分の時間を大切にしたりしているため、個別最適な空間づくりをさらに進めること。
- ・ 授業における学びの深まりを生み出せるような工夫が必要であること。「しっぴートーク」だけでなく発問の仕方や授業展開についてさらに研修を重ね、教科の学びにつなげていくこと。